



エグゼクティブブリーフ

インフォアのモダンなデータアーキテクチャ

データとアナリティクス

データでイノベーションを起こす

インフォアは、ビジネスワークフローにアナリティクスを組み込むことで業界固有の要件に特化したモダンなビジネスアプリケーションを提供しています。インフォアのビジネスアプリケーションは、近代的なデータ・アナリティクス・アーキテクチャ上に構築されており、異種のオンプレミスやクラウドシステムと統合することが可能です。ベンダー間でのアプリケーション機能の差が縮まる中で、組織のリーダーたちが真に求めるものは、ビジネス価値を高めることができるアプリケーションであり、それこそが、インフォアのモダンなデータアーキテクチャの根底にある戦略です。

インフォアは、データとアナリティクスに対してユニークなアプローチを採っています。それは、お客様の所有体験を簡素化するというものです。例えば、ERPの導入が完了していなくても、インフォアのモダンなデータアーキテクチャを使い始めることができます。お客様はクラウドの自動化とオープンアーキテクチャを活用して、あらゆる種類のデータ、ツール、スクリプト言語に接続し、使い始めたその日からビジネス価値を創出することができます。

“インフォアは、ERPからiPaaS、BI、AI、データレイクソリューションに至るまで、業務の効率化を促進するさまざまな機能を提供していますが、技術系ではない業務レベルのユーザーと高度な開発者の両方が使えるツールも用意しています。インフォアのソリューションを導入した企業は、手作業によるプロセスをなくし、幅広いダッシュボード機能やアナリティクス機能、レポート機能、統合機能を活用して、時間とコストを大幅に削減し、結束力のあるテクノロジー・エコシステムを構築しています。”

Nucleus Research 「Infor Customer Reactions」 Nick Grizzell氏著、2020年9月

手作業プロセスから業界特化の自動化へ

多くの組織が、モダンなクラウドアプリケーションを活用してビジネス戦略を推進していますが、一方でハイブリッドシステムを使用している組織は、統合や手作業プロセスの負荷が大きくなり、コストが増大する可能性があります。例えば、データやアナリティクス、パフォーマンス管理、コンプライアンスなどの要件を部門横断的に管理するための最小公分母（妥協点）として、スプレッドシート主導でプロセスが行われていますが、こうした手作業によるアプローチは時間がかかり、ミスが生じやすく、機密情報が漏洩するリスクが高くなります。

インフォアのモダンなデータアーキテクチャは、業界に特化した機能とコンテンツをあらかじめ組み込んでおり、手作業で行われることが多いビジネスプロセスを、柔軟にリプレースまたは統合して、短期間に価値を実現することができます。また、これらの機能の拡張やカスタマイズは、セルフサービス用に設計された完全なクラウドツールキットによって、数ヶ月ではなく数週間で完了し、リソースの追加やソフトウェアの統合も必要ありません。

インフォアのモダンなデータアーキテクチャは、すべてのビジネスプロセスの動きを捉えてモニタリングし、ビジネスデータを一元的に統制管理します。これによって、プロセスの効率性とデータへの信頼性を高められるだけでなく、アーキテクチャに統合された人工知能（AI）やその他の革新的なサービスを利用して、新たな価値を発見することができます。

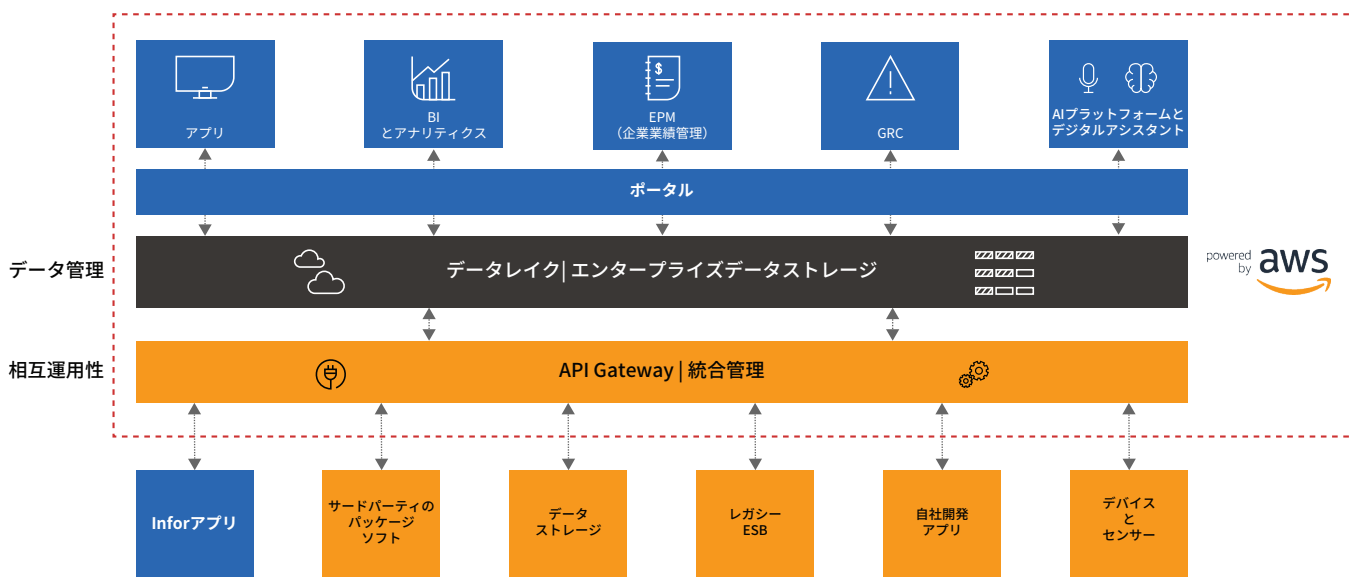
所有体験を簡素化してビジネス価値を継続的に創出

インフォアのモダンなデータアーキテクチャが提供する接続性があれば、組織の成長とイノベーションに合わせてサービスを多層的に利用して、ビジネス価値を高めることができます。例えば、Infor CloudSuite®などの1つのアプリケーションをプロビジョニングすれば、そのデータは即座に中央管理され、すべてのアプリケーションサービスと継続的に同期して、情報の統制と信頼性を確保します。インフォアのモダンなデータアーキテクチャは、以下のような相互接続されたサービスを提供することで、所有体験の簡素化を実現しています。

- **Infor OS®**—プロセス統合とデータ管理の基盤となるクラウドプラットフォーム
- **Infor Birst®**—ビジネスインテリジェンスとアナリティクス
- **Infor Coleman®**—人工知能
- **Infor Enterprise Performance Management® (Infor EPM®)**—インテリジェントな事業管理ツールと財務計画機能
- **Infor Governance, Risk, and Compliance (Infor GRC)**—エンタープライズ・リスク・マネジメント

インフォアのモダンなデータアーキテクチャは、異なるテクノロジーや機能、サービスを接続することで、1つの共通したイノベーションプラットフォームを構築します。アーキテクチャを長期的に利用すればするほど、あらかじめ統合されたサービスの価値をより多く引き出すことができます。

インフォアのモダンなデータアーキテクチャ



この長期的な利用は、データアーキテクチャを構築する際は、まず2つのアプリケーションをどのように相互連携させてシステム間で同じデータを共有すればよいか、という最もシンプルな問題を解決することから始めます。次に、さらにビジネス価値を高めるためには、どうすれば通知やワークフロー、意思決定を支援する機能を自動化できるのか？そのデータをどのように分析すればよいか？ビジネスプロセスを適切な管理下で継続的に監視するにはどうすればよいか？AIソリューションを統合することで、どのような分野で革新と自動化を実現できるのか？という問題を検討します。

インフォアのモダンなデータアーキテクチャなら、基盤となる接続性と迅速なイノベーションによって、これらすべてを実現することができます。しかも、お客様がすでに構築した機能を活かして、拡張することが可能です。

Infor OS

Infor OSは、サービスをシームレスに接続するテクノロジープラットフォームであり、ビジネスを革新するための基盤となる堅牢なテクノロジーフレームワークを提供します。エコシステム全体でサービスを再利用できるため、ITの間接費を抑えて短期間で価値を実現することができます。例えば、BIとアナリティクスのレポート作成を行うデータサービスは、AIプラットフォームにもデータを供給し、結果の予測を支援します。同様に、Infor OSの対話型のデジタルアシスタントのインターフェースは、インフォアのアプリケーションだけでなく、インフォア以外のアプリケーションにも対応することができます。追加開発やカスタムコーディングは必要ありません。Infor OSは、Infor Data Lakeと呼ばれる単一のストレージプラットフォームにデータを一元管理します。Infor BirstやEPM、Coleman、GRCなどのさまざまなスポーク・アプリケーションがデータレイクに接続し、それぞれの領域でデータを文脈化します。Infor OSは、ビジネス上重要な基本機能から、企業の競争力となる高度なテクノロジーに至るまで、以下のような幅広いデータ統合・管理サービスを提供します。

- ビジネス・プロセス・インテグレーションとハイブリッド接続 (Infor ION® および API Gateway)
- セキュリティ (フェデレーションサービス)
- データ管理 (Infor Data Lake)
- エンタープライズ・ユーザー・エクスペリエンス
- クラウド・エクステンシビリティ (Infor Mongoose) *

インフォアの モダンなデータアーキテクチャの特徴

- **使いやすさ**：習得、操作、共同作業が簡単なモダンなUI
- **セルフサービス**：IT部門の関与は限定的でビジネスユーザー向けの設計
- **柔軟でオープン**：ビジネス要件に合わせてカスタマイズと拡張が可能
- **コストの低減**：データ統合プロセスを自動化して時間とリソースを節約
- **リスクの軽減**：信頼できるデータを中央管理して統制
- **導入が容易**：すべてのサービスを単一のマルチテナントでプロビジョニング

Infor OSが提供するサービスは、緊密に相互接続されており、お客様は複数のサービスを独自に編成することなく、迅速かつ簡単にイノベーションの恩恵を得ることができます。例えば、Infor OSのポータルサービスは、ユーザーに関連するアプリケーションを1つの場所に集めて、ユーザーの処理内容に合わせて情報を文脈内で処理し、アプリケーションウィジェットとして表示します。ウィジェットに表示される情報は、ユーザーがシステム内を移動し、操作を実行する毎に更新されます。

また、複数のアプリケーションにログインし直す必要がないため、例えば財務管理者は、1つの画面上でBirstとEPMの両方のウィジェットを使用して、財務KPIを監視して、トランザクションの詳細にドリルダウンし、意思決定を行い、予算を変更して、目標を達成することができます。すべてのコンポーネントは、フェデレーションサービスやION、API Gatewayインタラクションのコアコンポーネントに直接結び付いており、従業員が本当に必要な時に必要なものだけを見て、各自の役割や、好み、特性などに適した方法で利用するように徹底することができます。

[詳しくはこちら](#)

*コアのInfor OSへの追加機能です

Infor Birst

Infor Birstは、Infor Data Lakeやその他のデータソースからインサイトを迅速に導き出すエンド・ツー・エンドなBI、データウェアハウス、アナリティクスサービスを提供します。Infor CloudSuiteのユーザーは、インコンテキストな（処理内容に応じた文脈で）アナリティクスウィジェットや、役割ベースのダッシュボード、レポートなど、Birstにあらかじめパッケージ化されたサービスを利用することができます。インフォアのモダンなデータアーキテクチャで相互接続されたサービスによって、ユーザーは各自が利用するビジネスアプリケーションから直接インサイトを引き出し、問題があればトランザクションの詳細にドリルダウンして即座に対処することができます。

インフォアのモダンなデータアーキテクチャのコンポーネント／サービスはオープンであり、どのサービスを使用するかは、お客様が自由に選択することができます。例えば、セマンティックレイヤーの信頼できるデータに接続すれば、サードパーティのツールをフロントエンドのレポート／分析ツールとして利用することができます。また、お客様に固有のアーキテクチャやパフォーマンス要件に応じて、サードパーティのデータストアを使用することも可能です。

Birstは、「ネットワーク化されたBI」というユニークなアナリティクスのアプローチで、中央集権化したチームと分散したチームのコラボレーションを可能にします。Birstは、IT部門が管理する企業データと、ユーザーが所有するエッジデータを統合することで、組織全体で唯一正しい真実のバージョンを共有・維持します。これによって、IT部門による統制とエンドユーザーのセルフサービスの適切なバランスをとり、個々のチームが、統制された企業データとユーザーが生成したデータを組み合わせて分析できるようになります。中央集権化したチームは、エンドユーザーのニーズに的確に対応できるようになり、アナリストだけでなく、データに詳しくないビジネスユーザーにも真のセルフサービスを提供できるようになります。こうして、ユーザーは自信を持ってデータを利用できるようになり、経営幹部が求めるデータの信頼性を確保することができます。

Birstは、機械学習テクノロジーの特許を取得しており、異種データソースのデータを、分析に適した形に自動的に統合します。また、技術系／非技術系の双方のチームにとって扱いやすいユーザー体験（レポート、ダッシュボード、ビジュアルな探索、モバイル、スマート分析など）を通して、統一されたビジネスルールや定義にアクセスすることができます。

[詳しくはこちら](#)▶

Infor Coleman

Infor Colemanは、インフォアの人工知能サービススイートを代表するソリューションであり、自然言語処理（NLP）と機械学習ソリューションで構成されています。Infor Colemanは、タスクの実行を革新的な方法で支援し、次のベストアクションをレコメンドするだけでなく、潜在的な問題を予測し、それに応じてシステムを調整します。

Infor Coleman Digital Assistantは、Infor Coleman製品群で最初にリリースされた製品であり、Infor OSプラットフォームへの対話型インターフェースを提供します。API Gatewayのカスタムスキルの構築が可能であり、音声による質疑応答やタスクの実行、その他のNLPベースの拡張ユースケースに対応します。

Infor Coleman AI プラットフォームは、エンタープライズ向けの機械学習モデルやユースケースを作成、管理、保護、実装するために必要なすべてのツールを用意しています。反復性を重視した設計で、複数のプロジェクトを迅速に作成することができます。つまり、お客様は、ROI（投資収益率）の高いソリューションに投資するということです。データセットは、Infor Data Lakeドキュメントのオブジェクトから直接抽出します。インフォアは、機械学習にまつわる業界共通の問題や機会をテンプレートで提供します。機械学習モデルは、安全なREST APIとしてAPI Gatewayに自動的にデプロイされて簡単にアクセスできるため、機械学習のレコメンデーションや結果をアプリケーションに迅速かつ簡単に組み込めるようになります。

[詳しくはこちら](#)▶

Infor Enterprise Performance Management (EPM)

Infor EPMは、予算編成、計画立案、予測、連結といったプロセスを自動化し、ビジネス全体のパフォーマンスを向上させるためのインテリジェントな事業・財務業績管理の機能を提供します。Infor EPMは、Infor Data Lakeからリアルタイムなデータを収集し、あるいはソースとなるアプリケーションから直接データを収集して、それらをビジネス上のインサイトに変換し、モダンなユーザーインターフェースを備えた統合ソリューションスイートに提供します。オーダーの修正から在庫状況の変更に至るまで、変更を加えるたびに情報は自動的に更新されます。

また、Infor EPMは、財務部門向けの完全統合された財務プロセスアプリケーションであり、重要なレポートを複数の形式(スコアカード、ダッシュボード、コックピット、一覧レポート、クエリ)で作成して配信することで、財務部門のユーザーが財務データと運用データを即座に分析できるように支援します。

Infor EPMの予算編成・計画モジュールは、組織の中核となるERPシステムに接続して、財務予算と実績を結び付けることができます。予算編成・計画モジュールは、損益計算、貸借対照表、キャッシュフローの計画機能を、パワフルかつユーザーフレンドリーなモデル作成アプリケーションと組み合わせ提供します。また、What-ifシナリオを無制限に反復して計画することが可能です。さらに、大企業向けには、ワークフロー管理、多通貨、換算レート、基本的/複雑な配賦処理のすべてに対応できる機能を提供します。

Infor EPMの財務連結モジュールは、法人各社の複数の会計帳簿を迅速かつシームレスに連結し、会社間取引を相殺消去して、1つの財務諸表を生成します。財務連結モジュールは、Infor ERPシステムと完全に統合されており、連結に関わる作業を簡素化、自動化することで、より多くの時間を財務報告や分析のために費やすことができるように支援します。

インフォアのモダンなデータアーキテクチャの相互接続されたサービスを利用すれば、パフォーマンス管理やビジネスインテリジェンス、トランザクションシステムといったシステム間をシームレスに接続することができます。例えば、EPMで予実対比を行ったユーザーが、その差異について詳しく知りたいと思えば、Birstでより複合的な分析を行うことで、差異の要因を理解することができます。グローバルな組織の場合は、製品グループ、部門、期間などの次元を使って差異を分析することも可能です。

BirstとEPMの両方が、Infor Data Lakeサービスを介して同じデータを利用することで、データの一貫性と信頼性が確保されます。もし問題が発見されれば、ユーザーはERPシステムに直接リンクして、差異を改善するために必要な是正措置を取ることができます。

予算編成と計画立案、予測を1つのシステムに統合したEPMは、業務計画や人員予算の編成、売上予測を効率的かつ俊敏に行うためのプラットフォームとなります。EPMがあれば、実際の業績を戦略的計画と比較してパフォーマンスを監視することや、持株会社を連結して完全な財務諸表を作成することが可能になります。

[詳しくはこちら](#)

ガバナンス・リスク・コンプライアンス (GRC)

インフォアのモダンなデータアーキテクチャサービスの1つであるGRCは、すべてのビジネスデータの中央リポジトリであるInfor Data Lakeに直接接続します。そして、オープンアーキテクチャのData Lakeは、インフォアのアプリケーションと、サードパーティのアプリケーションの両方からデータを収集して管理することができます。

つまり、GRCは、インフォア以外のサードパーティ製品が混在する異種システム全体の活動を監視できるということです。それだけでなく、異種アプリケーションを横断してユーザーを監視するためのコントロールを構築することも可能です。例えば、あるユーザーが、サードパーティのアプリケーションで給与データにアクセスし、インフォアのアプリケーションで人事データにアクセスできるような場合には、これらのERPシステムにわたって、コンプライアンス違反や職務分掌の問題を回避するための適切なコントロールが必要になります。

GRCでユーザーがプロビジョニングされると、直ちにデータ収集プロセスが起動し、そのユーザーが実行しているすべてのアクティビティやトランザクションが継続的に監視されます。このようにアプリケーションを横断してデータを収集することは、GRCをはじめ、BirstやColemanなどの高度なアナリティクスを提供するサービスにとってもメリットがあります。これらのサービスが同じデータを使用することは、エコシステム全体で不正行為や何らかの異常な活動を監視できるという付加価値サービスとなります。

[詳しくはこちら](#)

インフォアのモダンなデータアーキテクチャを活用して イノベーションを実現するグローバル企業

Miller Industries社やPilot Flying J社、ワタミ株式会社、Watercare社などの世界中のお客様が、デジタルトランスフォーメーションのイニシアティブを、モダンなデータアーキテクチャで支えるためにインフォアを採用し、データを適用、統合して、リアルタイムな共通の情報ビューを手に入れています。そして、モダンなアプリケーションインターフェースや組み込み型のウィジェットを通して、信頼できる情報を分析・利用することによって、生産性と意思決定の改善と、ROIの向上を促進しています。

Miller Industries 社

インフォアのモダンなデータアーキテクチャを導入したことによって、経営層や会計幹部からの問い合わせが約80%減少しました。これまでは、データ構造の高度な知識がなければ利用できなかった情報に、管理者たちが直接アクセスできるようになったからです。情報の可視化と、情報を利用できるまでの時間が短縮されたことによって、未回収の売掛金残高を約40%減少させることができました。

Pilot Flying J 社

Pilot Flying J社は、Infor OSのポータルサービスを利用して従業員向けポータルを作成し、チームメンバー全員が分析結果にアクセスして、会社の業績を一目で把握できるようにしています。組み込み型のアナリティクスを使用することで、従業員はさまざまな時間軸で「既存店売上の推移」などのより詳細な売上情報を確認し、さらに燃料や惣菜、レストランなどの目標に対する売上の進捗状況を把握することができます。

Pilot Flying J社は、Birstを導入して以来、財務報告書の作成と保守で年間50万ドルのコストを削減し、月次決算報告書の作成にかかる時間を劇的に短縮しました。同社は、750店舗すべてを対象に1つのレポートを実行していますが、Birstの導入前は、このプロセスに12時間以上かかっており、変更があった場合に再実行するのは困難でした。Birstは、これと同じ負荷をたった5分で処理します。こうして、生産性が飛躍的に向上したことで、より俊敏に変更や更新を行えるようになりました。

ワタミ株式会社

ワタミは、データアナリティクスの近代的なプラットフォームを構築するために、Infor CloudSuite Food & Beverageに移行しました。Infor Birstの導入によって、インフォアのマルチテナントのクラウドERPソリューションで標準化された生産管理データを可視化することができました。Birstは、インフォアのERPだけでなく、外部のデータも組織や拠点を超えて連携させ、業務に必要な情報を自動集約したダッシュボードを生成します。

今では、重要な顧客の開拓と新規顧客の獲得による販売を促進するためのデータを手に入れ、顧客生涯価値（LTV）を向上させることに成功しています。ワタミのチームは、消費者グレードのダッシュボードを使って、各センターの生産数量を把握し、予算と比較して、センター別および製品別の生産性を迅速に確認することができます。また、製造コストを確認して、実際の成果と理論を分析することができます。

Watercare 社

ニュージーランド最大の水道事業会社であるWatercare社は、同社のサービスを利用するオークランドの140万人の市民のために献身的に取り組み、コミュニティにより良いサービスを提供するために、ビジネスアプリケーションを近代化する必要に迫られていました。同社は、設備資産管理を改善し、顧客とのやり取りを充実させ、従業員の意欲を高め、ワークフォース管理するために、インフォアのアプリケーションを採用しました。

Watercare社は、インフォアと協力しながら、同社のビジネスプロセスの約60%に及ぶ全面的なデジタルトランスフォーメーションに取り組みました。同社は、顧客管理、請求、設備資産管理の分野を完全に再設計して統合し、アナリティクスを活用できるようなソリューションを構築しました。これによって、実質的にビジネスのあらゆる分野でコストを削減することに成功しました。Watercare社は、デジタルチャネルを通じた顧客とのやり取りの促進、手作業による顧客業務の削減、設備計画の改善と工事の最適化、事後保全の削減、従業員のエンゲージメント向上によって、多額のコスト削減を実現しています。

インフォアのモダンなデータアーキテクチャを選ぶべき10の理由

1. **真のマルチテナント（MT）アーキテクチャで導入を簡素化**—1つのプロビジョニングで、すべてのクラウドMTアプリケーションサービスを提供します
2. **より多くの価値を提供**—インフォアは、業界ドリブンな共通プロセスを基盤に、テンプレートやレポート、アナリティクス、パフォーマンス管理、不正防止、セキュリティ関連のコンテンツを標準で提供します。さらに、トランザクションの詳細にリンクすることによって、意思決定の向上を支援します
3. **迅速な実装サイクル**—すべてのInfor ERPにあらかじめ組み込まれたコンテンツとそのデータは、自動的に一元化およびカタログ化されるため、カスタマイズやエクステンション（拡張）が容易になります
4. **コストの低減**—インフォアおよびインフォア以外のデータソースのデータ統合プロセスを自動化することで、時間とリソースを節約し、データの信頼性を高め、ビジネスプロセスをエンド・ツー・エンドに可視化します
5. **アジリティを重視した設計**—データとアナリティクスの統制・中央管理と、分散したチームによる自由な拡張の適切なバランスを取り、組織全体で唯一正しい真実のバージョンを共有・維持します

6. **柔軟性**—ビジネス要件の変化に合わせて、セルフサービスのクラウドツールキットでカスタマイズ・拡張することが可能であり、新たなサービスを購入／統合する必要はありません。また必要に応じてオンプレミスで利用することも可能です
7. **再利用性**—相互接続されたアプリケーションサービスが、互いにメリットをもたらし、エコシステム全体に価値を共有します
8. **オープンサードパーティのERPシステムやデータベース、ツールなどのインフォア以外のアプリケーションと統合し、ソリューションを拡張することができます**
9. **統合性**—Web Services APIを使用して、インフォア以外のアプリケーションにサービスを拡張することができます
10. **継続的なイノベーション**—真のSaaSマルチテナントのアプリケーションが、業界の新しいイノベーションを継続的に提供します。業務の中断や、時間とコストのかかるアップグレードサイクルは必要ありません

詳しくはこちら 



インフォアは、業界特化型のビジネスアプリケーションをクラウドで提供しています。17,000人の社員が、175か国以上で65,000以上のお客様のビジネスを支援しています。詳しくは、www.infor.com/ja-jp/ をご確認ください。